

土助梅園に

春がやってきた！

恵那市明智町の中心地より車で約15分。山あい広がる「土助梅園」の梅が今まさに見ごろを迎えている。傾斜のある約1ヘクタールの敷地で、約400本50種類の梅を育てるのは堀廣幸・有希夫妻。採れた梅の実を加工し、販売まで行う園主に、梅園の成り立ちや見どころを取材した。



傾斜を登り切った先にある 休憩所からの眺めが「押し

高低差100mほどの傾斜を登っていく。次々に出合う梅の木は、満開のものもあれば、まだ咲き始めのものも。立ち止まっては紅や白、ピンクと可憐な花を眺め、春を感じさせる甘く優しい香りに包まれながら、ゆつくりと歩みを進める。

目指すのは、傾斜を登り切った先に建てられた休憩所「梅眺庵」。たどり着いたころには、少し息が上がり、汗ばんでいるが、振り返ればそこに広がっているのは圧巻の景色。一面が梅の花に彩られた華やかな絶景に、心も体も癒される。

山沿いの田んぼを 花も実も楽しめる梅園へ

「土助梅園には写真を撮る方がたくさん来園され、風景全体がおもしろいといっていました。中でも梅眺庵からの風景は特にいい。上まで登らずに帰ってしまう人もいますが、ここからの風景はぜひ見ていただきたいです」と教えてくれたのは土助梅園の園主、堀廣幸さんだ。

土助梅園の始まりは、昭和60(1985)年ごろ。もともと田んぼだった土地に、当時会社勤めをしていた廣幸さんが梅を植え始めたのがきっかけだ。「梅なら花を見れるし、実も採れると思って植え始めました」と

廣幸さんは笑う。観賞に、食用にと、古くから親しまれてきた梅は、花梅と実梅の2つに大きく分けられる。廣幸さんが最初に植え始めたのは、食用である実梅の「青軸」「白加賀」「南高梅」などの品種。2年目くらいには200本を植え終わり、実梅だけでなく、花を觀賞するための花梅も徐々に増やしていった。

木が大きく成長した平成21(2009)年には、満を持して新聞で公表。知り合いの間で楽しまれていた梅園は、一般客にぎわうようになった。約400本50種類が揃ったのは植え始めてから20年後、地道に積み重ねた努力があつてこそだ。

試行錯誤の上に完成した オリジナル梅干し2種

廣幸さんは平成2(1990)年に有希さんと結婚。そのころすでに30kgもの実の収穫があり、有希さんは梅干しづくりを始めた。

「梅干しづくりは未経験だったので、テレビ番組を見たり、本を参考にしたり、自分の好きなように作ってみたら、結構おもしろいと反響をいただいた。それなら販売しようかと考えたんです」と有希さんは振り返る。それから保健所の許可を取り、加工場所を建てるなどの準備期間を経て、平成14(2002)年に販売を開始した。有希さんの梅干しは2種類。塩分

10%と減塩仕様の「嶺の梅」は、濃いめの酢を入れて漬け込む。塩分20%の「昔ながらの梅干し」は、その名の通り昔懐かしいおいしさ。実を一つひとつ丁寧に摘み取り、すべて手作業で漬けたんだ無添加の梅干しは、しつかりとした酸味がある素材かつ力強い味わいで、梅干し好きの人にはぴったりだ。

せんが、開花期間が長いゆつくりと楽しめます」と有希さん。土助梅園では毎年1月ごろから「紅冬至」、続いて赤みの少し濃い「鹿児島紅梅」が咲き始め、2月の終わりごろから実梅が咲き、「曙」などの枝垂れ、白い花びらに紅が混じる「思いのまま」「春日野」「柳川絞」へと続く。時期により咲いている種類は異なるため、開園する3月の終わりごろまで何度訪れても違った表情を楽しめるのが魅力だ。

日本の花という桜を連想する人が多いだろうが、奈良時代や平安時代の花見とは梅の花を楽しむための行事だったという。

開園に合わせて、訪れた人が歩きやすいように草刈りを行う。品種がわかりやすいよう置いてある竹の札は、書道師範の資格をもつ廣幸さんが毎年筆を振るう。土助梅園のロゴ

や商品のラベル、案内文もすべて廣幸さんによるもので、こちらも必見だ。これだけ見応えがありながら、入園料はなんと無料。「山のさみしい場所をにぎやかにしてもらっているので、入園料はいただいていないんですよ」と語る廣幸さんに、有希さんは「こんな時期ですから、梅の花を見てココロ豊かになっていただけたらと思います」と言葉を続ける。夫婦が長年かけて作り上げた土助梅園は、地域に春の訪れを告げる桃源郷へと成長した。梅の花が薫り高く咲き誇る風景を楽しむのはもちろん、夫婦の温かさや優しさを感じ、自粛期間が明けたらぜひ訪れたい場所である。



梅園の剪定は廣幸さんが、梅干しづくりは有希さんが担当。互いに支え合い、楽しみながら生活する姿はとても素敵だ



コロナ対策として、マスク着用はもちろん、手指消毒を設置します

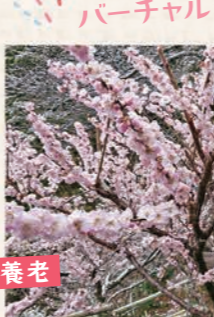
堀廣幸・有希夫妻



有希さんによる梅干しは、日本大正村の朝市や月に一度恵那市中央図書館イベントで開催している「たべとるマルシェ」で購入できる。写真はすべて嶺の梅で、バック入り(300g)と壺入り(100g)は食卓にそのまま出せる手軽さがうれしい。明智光秀が主人公のNHK大河ドラマを記念にした土産用「戦国嶺の梅干し」も

information
土助梅園 恵那市明智町横通774
☎0573-54-4125 📍なし
※土助梅園入口付近の空き地に駐車スペースあり

見学自由
詳しくはこちら



青い屋根の左に見える茶色い建物が梅眺庵。平成19年に廣幸さん自ら手掛けた。窓が大きく、お茶で一服しながら絶景が楽しめる